

令和7年9月30日

令和7年度 第1回総合計画後期見直し 役場ワーキング会議録

【グループワークテーマ】業務を通じて感じる町の課題など

・ワーキング会議の意見

■対外的課題

- ① 住民が感じている個別の課題と町の施策がずれていることがある。
- ② 町が行っている施策について町民が知らない。また、会議などで関わることはあるが、その意図や目的を町民が理解できていない。
- ③ 町がなぜその施策を行っているのか、その意思決定プロセスが見えないため「なぜ、そうしたのか？」を町民が理解できていない。そのため不信感が募りやすい。
- ④ 子育て支援センター以外で子どもを預けられる施設がない。
- ⑤ 休日に子どもを遊ばせられる場所がイオンモール以外ない。特に雨天時は困る。
- ⑥ 自治会の自主防災訓練やイベントなど、若者世代の出席者が少ない。

■組織的課題

- ① 町として決定した政策について、何のために（目的）その政策を進めるのかについて庁内で共有されないの理解できない職員が多い。
- ② 具体的に仕事の共有が深く話し合えない（話し合われていない）ため、職員間で分裂がおこる。
- ③ 職員間での声掛けが少ない（心理的障壁は声掛けからすべて変わらなと思う）。
- ④ デジタル化についていけない世代の職員へのフォローが整っていない。
- ⑤ 町議会議員の“声”が影響しすぎている。
- ⑥ 増加する外国人の方への対策が不足している（通訳など）。
- ⑦ 高齢化、独居の方が増えていて課題が増えている（窓口対応）。
- ⑧ 明確な将来設計がされていない。
- ⑨ 未だにチラシなど、紙でのやり取りをしていることがある。
- ⑩ 議員と行政が対立するのではなく、相互協力が必要。
- ⑪ 町民が窓口に来なければできない手続きが解消していない

■制度的・事務的課題

- ① 国民健康保険料や介護保険料高齢者など、普通徴収から特別徴収への切り替えにかかる、高齢者への説明が難しい。

- ② キャッシュレスなど、支払方法の多様化への対応が遅れている。
- ③ 役場窓口における、手続き中の子どものフォロー環境の改善。（遊びスペースなどの安全性の確保、見守りカメラの設置）
- ④ 開庁時間中に電話や来庁できる時間がある町民の方（高齢者など）の声は届きやすい。しかし、昼間仕事をしている現役世代の声が届きにくい。もっと働いている世代の声を聞ける体制構築が必要。
- ⑤ オンライン手続き導入の遅れ（ほとんどが日中でしか手続きができない）

■その他

- ① 人口減少対策。
- ② 介護保険や医療保険がひっ迫していくことへの対策。
- ③ 働き手不足
- ④ 町有施設（公共施設）の老朽化の進行
- ⑤ インフラの老朽化
- ⑥ スポーツ施設や学校の集約が必要
- ⑦ 農業離れ
- ⑧ 福祉サービスの能動的な案内がない
- ⑨ 市街化できる土地が少なくなってきた。開発ができない。
- ⑩ 人材不足（保育士）による待機児童の増加。
- ⑪ 事業者をはじめ人手不足。
- ⑫ 町民が参加できるイベントの減少。
- ⑬ 人口減少による税収減。
- ⑭ 若者支援の不足。
- ⑮ 自治会未加入者の増加。
- ⑯ 町民の地域とのつながりの希薄化。
- ⑰ 増加する外国人の地域ルール of 徹底。

